

災害支援ナース活動報告書

報告者：石川 百恵

所属施設：済生会新潟病院

報告月日：令和 5年1月29日

活動日	1月 21日（日）～ 1月 24日（水）
活動場所	施設名 珠洲市立正院小学校
活動内容	<p>1月21日から1月24日まで石川県珠洲市、正院小学校の避難所で東京看護協会との計4名で活動した。1次避難所ということもあり一時400人近く避難されていたとのことだったが、私たちの活動時は昼夜約100人前後の避難者が在所、PWJの仮設診療所が設置・巡回地点になっていた。ライフラインは、電気の供給があるが、上下水道不通、給水車と屋外の仮設トイレ中心であり、支援物資の保管場の体育館は雨漏り・天井破損あり、校舎裏側にはがけ崩れが発生、海岸から200mの位置にあり、生活を送る点でも肉体的・精神的に問題点が上がっていた。また食事も有志の炊き出しが中心で避難所運営局も疲弊し、避難者のほとんどが、単身・老々世帯であり、避難所内の自助的な活動を自ら行っていくとする時期であった。小学校機能としては、全校生徒の約1/3の10人程度が登校し半日授業が再開されたばかりとなっていた。</p> <p>私たちが、避難所到着と同時にPWJ巡回受診があり、診察補助からの活動開始となり避難所内外の状況把握や活動計画を検討する前からの活動となった。支援ナースとしての活動は、避難者に高齢者や精神疾患を含め持病のある方が多く、症状の増悪の早期発見・内服残薬の確認・健康観察を全避難者に対して行った。前任者隊の時期までCOVIDや感染症症状の避難者がいたことから、継続して環境整備・予防の啓発活動を行い、要観察・要診療の避難者を早期にピックアップした。また、地元で普段から行われていたシルバーリハビリ体操の開催に向けて相談検討し、25日以降週2回の開催を計画することができた。避難所内の環境に対して、寒さのため換気不足しており、Co2計測できたので、具体的に声掛けを行うことができた。活動期間中、COVID1件、感冒症状者多数あり、スクリーニング検査・ゾーニングを行った。避難生活で疲弊している方も多く、精神的に不安定な方を巡回時にキャッチでき、DPATの巡回診療につなげ、PWJ・保健師等の他支援チームと情報共有することができた。</p>
所感	<p>活動中は幸いに大きな余震がなく活動できたが、避難所の安全確保が不十分な所での活動は、避難者・支援者ともに心的負担が大きく、2次避難所への声掛けをしていたが「地元から離れられない」葛藤を感じた。支援ナースは、他の支援者と協力してどのように、安全で安心できる環境を作ることができるのかを考えながらの活動であったと思う。また、活動に際して疲弊している避難所運営者に対してどのように支援を行い、援助を行えるかを悩んだ活動であった。</p> <p>今回支援ナース活動に際し、多くの協力をいただき感謝しています。</p>